

大間から東へ走る津軽海峡に面した道路は「はまなすライン」という名称です。ハマナスが咲くとは楽しみです。下風呂温泉から対岸の函館方面の山並みが臨めました。北海道がとても近くに見えました。朝、散歩をしましたが、僻地、過疎の漁村であることが痛いほど分かります。ここに産業を誘致し、仕事をほしいという住民の気持ちは当然でしょう。旅館の若女将は「原発反対の気持ちはあっても、口に出せない」と言われました。そこで働いている地元の人がいまして、この鄙びた温泉も、それで潤っている部分があるからでしょう。

私たちは、昨日のハードな旅程を思い出し、また、遅くならないうちに帰宅したいということで、今日の目的地は六ヶ所村に限定しました。その道中で昨日会えなかった女性にお土産を郵送するために郵便局に行くと、客は私一人でした。局員は宛先を見て、彼女をTVや新聞で見たと言いました。私が「原発、どうですか」と声をかけると、「職務上大きい声では言えないが、福島が収束しないうちは、無理でしょう」と言って、全員が頷きました。私は彼女へささやかなエールのお土産を郵送出来て、また、局員の胸の内を知って、心が少し軽くなりました。「横浜の方で、脱原発を応援しています」と言って辞めました。

六ヶ所への道は交通量も少なく、美しく静かで緑に囲まれていました。風力発電施設も建っていました。11時前に到着し、若く美しい女性職員の出迎えを受けて、最初に3階の展望室へ向かいました。工事中でネットや鉄パイプの工事用具に囲まれていましたが、窓から太平洋まで展望が開け、遠くに大きな建物がいくつも見えました。



❖ **再処理工場** (使用済み核燃料棒を保存していると同時に、使用済み核燃料棒を粉々に砕いて、溶かし分離し、精製する。この工程で副生成物として放射性物質が生まれる。この線量はどの程度なのでしょうか。まだ稼働していませんが、現在も内部には試験運転による高レベルの放射性廃液が残っている。) その隣に、

❖ **MOX 燃料工場** (再処理工場で取り出されたウラン・プルトニウム混合物を原料として燃料に加工する。) も建設中です。真正面に **尾敷沼** (おびちぬま)。見えませんが、その傍の地下に、

❖ **高レベル放射性廃棄物中間貯蔵施設** (高レベル放射性廃棄物のガラス固化体を一時的に貯蔵する/10月20日にもフランスから輸送された。) はあるはずですが、その先に **むつ小川原港**。

❖ **低レベル放射性廃棄物の埋没処分場** (地下200mの岩盤まで掘り下げ、200ℓ入りのドラム缶300万本収容可能) があり、各原発で使われた作業着、廃器材などが永久にここで保存されています。 **原油備蓄庫** も見えます。広大な原子燃料サイクル施設でした。

遠心分離法の試験運転は成功したそうで、安全を主張します。様々な機器の故障、収納機器の劣化、トラブルが続き、土壌、地盤等の安全性、耐震性が確保されておらず、更に隠ぺいや、10月21日には設備を無許可で使用し、それを偽装したことも報じられています。



2階で、図を示し、天然資源のウラン燃料は限りがあるので、使用済み核燃料からウラン、プルトニウムを遠心分離法で取り出し、濃縮し、再利用するサイクルの説明をされました。燃料棒やガラス固化体を入れたキャニスターの実物模型もあり、巨大さに驚きました。美しい未来の姿かのように展示されていました。見学者は他に1組でした。「私は原発に反対です」と職員に伝えると「分かっています」と応えられました。